

<メディアウオッチ>

NHK 経営委員長辞任報道から見えるマス・メディアの体質

上出 義樹

東京電力社外取締役への就任が内定し、兼職が問題になっていた数土^{すど}文夫 NHK 経営委員長（鉄鋼大手・JFE ホールディングス相談役）が 5 月 24 日、それまで続投の意向をみせていた経営委員長の辞任を発表。新聞各紙が翌日の朝刊で、突然の辞任を大きく報じているが、一部の報道から、マス・メディアの悪しき体質が見え隠れしている。

東京電力取締役との兼職に関係閣僚がお墨付き

NHK の経営委員会は、NHK の経営方針を決めたり会長を選んだりする最高意思決定機関だが、個別の番組に関与することは放送法で禁じられている。ただ、NHK と密接な取引関係にあるなど特定の企業以外は、経営委員と取締役との兼職が禁じられていない。

このため、数土氏本人ばかりでなく、電波行政を担当する川端達夫総務相や、電力会社を監督する枝野幸男経済産業相ら野田内閣の閣僚も、兼職を「問題なし」と語っていた。

しかし、東京電力は昨年 3 月に福島原発事故が発生して以降、NHK を含むマス・メディアにとって最大の取材対象になっており、数土氏に対し、市民団体などのほか、NHK の内部からも、「取材する側と取材される側の双方の経営に関わるのは公共放送への信頼低下を招く」「ジャーナリズム倫理と相容れない」などの批判が出ていた。

NHK の経営委員には読売新聞の元政治部記者も

それでは、主要各紙の報道内容はどうだったのだろうか。数土氏の経営委員長辞任を伝える 5 月 25 日付朝刊は、朝日、毎日、東京が、兼職を問題視しているのに対し、読売や産経の社説は、兼職は基本的に問題ないとの見方を示している。

実は、数土氏を除く 11 人の NHK 経営委員の中に、読売新聞の出身者がいる。元民放連専務理事の北原健児氏（日本テレビ系列の福島中央テレビの元社長）で、もともと読売新聞の政治部記者だ。

記事には全く登場せず

経営委員の顔ぶれは、民間企業の経営者や大学教授、作家、団体役員、弁護士らさまざまだが、放送界の内情に詳しい関係者によると、メディアの世界にも政界にも通じた北原氏は両者をつなぐ調整役として、委員長を支える大切な役回りを担っているという。

数土氏の東電取締役就任が明らかになった今月中旬の段階で読売新聞が、単独の記事として兼職問題を報じなかったのは、「身内」である北原氏の存在という個別の事情も、あるいは作用しているのかもしれない。もちろん、北原氏のことは記事には全く出てこない。

舞台裏の核心部分に切り込まない報道

NHKの経営委員は、電波行政を所管する総務省より、主に首相官邸の意向に沿って選任されるようだが、各委員の選任の経緯は、一般の視聴者からはほとんど見えない。

とくに、今回の数土氏の辞任劇には、政治的な背景を含め複雑な要素が絡んでいるが、読売に限らず、経営委員の言動や役割など舞台裏の核心部分に切り込んだ報道が少ない。

読売新聞と日本テレビ、朝日新聞とテレビ朝日という具合に、日本では欧米に比べ、新聞とテレビの系列関係がことさら強い。そんなマス・メディアの持たれ合い体質が、NHKの問題でも、報道の甘さとなって表れたということなのだろうか。

(かみで・よしき) 北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在、フリーランス記者。上智大大学院博士課程(新聞学専攻)在学中。